

有志の知事によるデータを活用した「交通空白」解消を目指す研究会

日時 令和8年1月28日(水) 16:50~17:20

場所 東館5階 特別会議室

(池上調整官)

それではただいまから、【有志の知事によるデータを活用した「交通空白」解消を目指す研究会】を開催いたします。

本日司会を務めます、静岡県連絡調整官の池上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日の出席者を御紹介させていただきます。

本研究会の共同発起人でございます、静岡県鈴木知事。同じく共同発起人の三重県一見知事。続きまして、長野県阿部知事。滋賀県三日月知事。一般社団法人全国自治体ライドシェア連絡協議会浅見共同代表。同じく藤井顧問。なお本日は代理出席といたしまして、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、岡山県から、副知事をはじめとする皆様に御出席いただいております。

それでは次第に沿って進めてまいります。

次第2「会則(案)等の協議」。会則(案)等につきまして、事前にお配りしておりますが、修正等の御意見、御質問がありましたら御発言をお願いいたします。

(意見なし)

よろしいですか。特に御意見ないようでございます。

それでは会則案についてお諮りいたします。御異議等がある方は挙手または御発言をお願いいたします。

(異議なし)

御異議等ございませんので、会則案は承認されたものといたします。

これをもちまして、本日を研究会設立日といたします。ありがとうございます。それでは続きまして、次第3「正副会長及び座長選任」に移ります。

会則第五条におきまして、本研究会には、会長、副会長及び座長を置くこととしております。あわせて第二項において、会長及び副会長は構成員の互選により選出することとされております。

それでは、会長及び副会長の選出につきまして、御意見等ございましたら御発言をお願いいたします。

はい、三日月知事お願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

はい、ありがとうございます。今議題となった案件については、設立発起人でも

あられ、政治的御経験も豊富な、鈴木康友静岡県知事に会長を、そして、この分野、行政的にも御経験豊富な、一見三重県知事に副会長になっていただければいかかかと御提案申し上げます。以上です。

(池上調整官)

ただ今、三日月滋賀県知事から、会長を鈴木知事に、そして副会長を一見知事にお引き受けいただいたらどうかとの御推薦がございました、これにつきまして、他に御意見や御推薦がございましたら、御発言または挙手をお願いいたします。

(発言なし)

他に御推薦等ないようですので、それでは、鈴木静岡県知事に会長、そして一見三重県知事に副会長に御就任いただくことで御異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、御異議ございませんので、そのように決定したいと存じます。

続いて、座長の選任を行います。

座長につきましては、会則第五条第五項により、会長が指名することとされています。会長に御就任いただきました鈴木静岡県知事から座長の指名をお願いいたします。

(鈴木知事)

はい、それでは、座長にはですね、データ活用に豊富な知見をお持ちであり、東京大学特任教授を務められているとともに、一般社団法人全国自治体ライドシェア連絡協議会の共同代表であります、浅見泰司(あさみやすし)氏に、お願いしたいと存じます。

(池上調整官)

それでは、ただ今正副会長及び座長に御就任いただきました皆様から、御挨拶を頂戴したいと存じます。

初めに鈴木会長、お願いいたします。

(鈴木知事)

はい。それではよろしくお願ひ申し上げます。

会長を拝命いたしました、静岡県知事の鈴木康友でございます。

本日でですね、同じ課題意識を共有する有志の各県知事の皆様とともに、本研究会の発足並びに第1回の研究会を開催できますことを、大変嬉しく存じます。

近年、交通サービスの需要の減少でありますとか、供給体制の弱体化が進むなど、地域公共交通を取り巻く環境は一層しさを増しており、「交通空白」といわれる

地域等で、住民の移動手段を確保することは、喫緊かつ重要なテーマとなっております。そこで、オンデマンド交通や公共ライドシェアなど、多様な手段が登場する中、これらをいかに効率的かつ有効に実装していくかが鍵となります。

これまでの交通政策においては、適時適切なデータに基づく迅速な企画立案ができていないという課題がございました。

そこで、本協議会では、客観的にデータを活用し、より迅速な政策展開に向け、国の法改正等の動きも視野に入れつつ、各自治体の現場から知見を持ち寄って議論をし、好事例を共有し、横展開を図ることによって、具体的な成果を上げてまいりたいと思います。

本研究会が、地域の実情に根ざした持続可能な交通政策の具体化に繋がるよう、皆様と力を合わせて取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

(池上調整官)

ありがとうございました。続きまして、一見副会長、お願いいたします。

(一見三重県知事)

はい、ありがとうございます。

池上調整官の力で、この会議を進めていただきまして本当にありがとうございます。

まず、私副会長ということで御指名をいただいておりますけれども、役者不足でございますので、どういったところで皆さんに御協力することができるか、なかなか未知数のところございますが、一生懸命やっていきたいと思っております。

この研究会を作ろうというお声がけをいただきましたのが、静岡の鈴木知事でございます。心から敬意を表したいと思っております。非常に時宜にかなった研究会だろうと思います。

今日は多くの国土交通省の方が、池光公共交通政策審議官、それから各運輸局長さん、多くの方が御出席になっていただいております。

様々なお力をお貸しいただいてですね、この研究会が良い形で実を結べるようお願いをしたいというふうに思います。

三重県だけではなく、各県皆さんそうだと思いますが、もう人口減少はとどまるどころを知りません。

従いまして、学校の統合しなきゃいけない病院も統合しなきゃいけない、いろいろなところでですね、公的機関を含めて統合が進みつつあります。

そうすると、今まで歩いて行けた、あるいはもう車で5分で行けた場所にあった

施設がどんどんなくなってくると。ただ、そこに行かないといけない。買物も同じです。スーパーもどんどん少なくなっていて、遠いところまで買いに行かなきゃいけないという事態が、各地で起きております。

それを解決するのはもう交通しかない。物流も含めてということになりますが、というふうに考えておられて、今まで以上に交通の重要性というのは認識をされてきているというふうに思います。

他方、県レベルでいうと、今まで交通ってのは国と基礎自治体でやっておりましたので、なかなか県が、交通に参与して進めるということは、難しい状況、知見もそんなに持っていないということでもあります。

そういう状態ですので、皆さんで情報を共有するっていうのが、今まで以上に必要になった時期ではなかろうかと思えます。

去年の12月にうちの(三重)県庁の職員が、各自治体、三重県29市町があるんですが、そこにデータ活用の必要性について調査をしました。

そうすると、データ取得のための予算が確保できてないとか、データ分析を行う人材が不足をしていると。データ活用の必要性はよくわかってるんだけど、という結果が出ております。

今までは、交通ってのは各地各地で様々なので、対応の仕方もバラバラでいいんじゃないか、ということもありましたが、実はこれは、客観化していったり普遍化していくことが可能だと思えますので、そういった形でですね、これからデータをもとにして、我々は政策立案をしていく必要があるかと思っております。

今回のメンバーはこの人数で発足しましたけど、これはできたら全国に広げていく、そういった形で進めさせていただきたいというふうに思っております。

微力ではありますが、会長を支えてしっかり頑張ります。よろしく申し上げます。

(池上調整官)

ありがとうございます。浅見座長、お願いいたします。

(浅見全自連共同代表)

はい。本研究会の座長に御推挙いただきました浅見でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私自身は、都市計画ですとか、空間情報解析、こういったことを研究テーマとしております。こういった意味ではデータに基づく政策立案、これ非常に重要でして、地域交通の分野においても、極めて重要と思っております。

私が共同代表を務めます全自連ですけれども、EBPM(Evidence Based Policy Making)、その重要性を掲げまして、昨年度、地域交通データ会議を立ち上げまして、国都道府県市町村、それから配車アプリの事業者、皆様から幅広く御

意見を伺ってまいりました。

本研究会は国の制度ですとか、今後の政策展開に資する整備を行う場となるとともに、現場を支える皆様の一助となることを願っております。是非、率直かつ建設的な御意見をお寄せいただきまして、本研究会が実りあるものにしていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(池上調整官)

ありがとうございます。正副会長そして座長におかれましては、今後の研究会の運営の舵取りをどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日は、国土交通省から、大変御多忙の中、来賓として御出席いただいております大臣官房公共交通政策審議官の池光様から御挨拶を賜りたいと思います。

池光様、よろしくお願いいたします。

(池光公共交通政策審議官)

はい。国土交通省の池光でございます。

有志の知事によるデータを活用した「交通空白」解消を目指す研究会の第一回目の開催につき、心よりお慶びを申し上げます。

また、本日ご参加の静岡県の鈴木知事、三重県の一見知事、長野県の阿部知事、滋賀県の三日月知事におかれましては、日頃より地域交通行政の推進に多大なる御理解、御協力を賜っておりますことを、この場を借りて御礼を申し上げます。

先ほど一見知事からも言及ございましたように、地域交通は人口減少によって需要が減り、また担い手不足で供給が非常に厳しくなっています。

一方で、同じく一見知事がおっしゃったように、学校・病院の統廃合、学校の部活動の地域展開など、地域において社会的機能を果たすべき拠点が集約され、そこへの移動距離が延びています。

供給が減る一方で、むしろ移動への需要が拡大する、そういう中で、足をしっかりと確保し地域のニーズに応えていかないといけない。我々は、こういう局面にあるかと思えます。

本日も、神奈川県相模原市に視察に行つてまいりました。

相模原市は、1市4町が合併したところです。相模大野、橋本など主要駅があり、さらにリニアの駅ができるような「都市」のイメージがある一方、合併された郊外の旧4町はまさに「中山間地域」でありまして、地元のバス会社が、1年後に13路線ある内の11路線を一挙に廃止する危機に直面しております。

相模原市は、今必死で、地域の人たちの足をどう確保するか検討されており、その現場に行つて実際のお話をお聞きしてきました。

首都圏であっても、こういった交通空白の問題というのを避けて通れない状況であります。「田舎だからある問題」じゃなくて、もう日本全国どこに行っても、交通空白は対処しなきゃいけない、こういう状況なんだろうと思っております。

また、交通空白対策を進めるための自治体の体制は、地方部ほど十分ではありません。当省の調査によると、人口5万人未満の自治体において、交通を専任する職員を置いていないところが84%もあります。小規模自治体、人口減少により問題が顕在化している自治体ほど、地域の足の確保、「交通空白」解消を進めるための体制がない。これを補うのがデータだと思ってます。

全自連の皆様が今一生懸命やってくださっていますが、データの活用も、各自治体がバラバラでやるのではなく、色々な自治体でできる限りノウハウを共有し、そのいいところ取りをどんどん行い、皆でベストプラクティスをいち早く展開していく。これが大事です。国交省も、そういった取組をしっかりと支援をさせていただきたいと思います。

各地がより連携しながら交通空白を解消していく、本研究会がそのリーダーシップを取ってくださることを、大変期待しております。

今後も、国交省は、各運輸局と共に、各都道府県の皆さまとしっかり連携し、交通空白の解消に取り組んで参ります。引き続き宜しく願い申し上げます。

(池上調整官)

池光様、大変ありがとうございました。

なお本日は北陸信越運輸局 佐橋局長、関東運輸局 藤田局長、中部運輸局 中村局長、近畿運輸局 服部局長、中国運輸局 金子局長にも今回オブザーバーとして御出席をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは続きまして、次第6「会員等の御挨拶」に移ります。

本日、長崎山梨県知事は、急遽御出席できなくなったということで御連絡ありましたので、まず初めに、阿部長野県知事、お願いいたします。

(阿部長野県知事)

はい。まず本日こういう形で、この研究会発足できましたことは大変感謝申し上げます。鈴木会長、一見副会長には、また全体を牽引していただきたいと思っておりますし、また浅見座長にはいろいろ御指導いただきたいと思っております。

また池光公共交通政策審議官をはじめ、国交省の皆さんにはいつも大変お世話になっておまして、ありがとうございます。

この交通空白の問題は先ほどの一見知事からもお話あったように、地域生活を考えていく上では、今、最も重要な課題だというふうに思っております。

教育、医療、様々な分野を考える上でも、この移動をどう確保するかということ

は極めて重要な課題になっていますし、特に地域社会高齢化が進んでいる中で、今まではマイカーでなんとかなっていたが、だんだん免許返納しないと交通事故が増えていくというときに、今のままでは暮らし自体がそもそも成り立たないと思っている。そういう意味では、ありとあらゆる手段を講じて、住民の皆さんの移動の足を確保するということが、我々都道府県にとって急務だと思っています。

特に、長野県は、木曾地域には町村しかない広域圏になっていますので、県も広域連合に交通の分野で一緒に参加して、町村と県で一緒に取り組む体制を作りました。

また、新しく地方制度調査会が動き出しましたが、国と都道府県と市町村の役割分担を直そうという話になっていますが、この交通空白の問題も大きい意味での国と都道府県と市町村の役割をどうしていくのか、ということも含めて、是非、皆さんと一緒に考えていければと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

(池上調整官)

ありがとうございます。続きまして、三日月滋賀県知事、お願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございます。

とても重要な研究会が立ち上がり、今日スタートしたのだと思いました。目下行われている総選挙でも、この話題をもっと取り上げていただけたらいいなと思います。鈴木会長よろしくお願いします。政府にも言っていただきたいと思います。

阿部知事はじめ一見知事、それぞれの方がおっしゃったように、私達1人ひとりの日々の暮らしにとって、また、全国津々浦々それぞれの地域にとって、今最も重要な課題の一つが、この交通空白をどのように解消していくのかということだと思います。私も滋賀県でも、いろんなチャレンジをしているところです。

せっかくですので、三つ申し上げます。

一つ目は、データを活用ということで、データを有する事業者、もしくは自治体の協力が最大限得られるように、もしくはそれをインターフェースする、プラットフォームを作る、そういうことの好事例を共有したり、また頑張るところを支援したり、ということが必要ではないかと思います。困り込みとか、後で参画する人が大きな負担をしなければいけないということのないように。

二つ目は、ライドシェアも頑張ります、自動運転のチャレンジもします、もちろん規制緩和も大事ですが、既存事業者との関係ですね。その悩みへの寄り添いを、是非忘れずにすることが必要ではないか。

そして三つ目は、やはり財源をどう作っていくのか、ということだと思います。今

週末から私達も自動運転の社会実験をしますが、国交省の予算をいただけなくて、県で頑張っって費用を工面しており、例えばこういう新たなチャレンジをどのようにみんなで応援していくのか。ここは課題として提起しておきたいと思います。みんなと一緒に考えていきましょう。以上です。

(池上調整官)

ありがとうございます。それでは最後に、当研究会の顧問として、大所高所からアドバイスをいただきます藤井顧問、お願いいたします。

(藤井全自連顧問)

改めまして、全自連の顧問を務めております藤井でございます。

国土交通省勤務時代、今日御出席の知人の皆さんありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

2年半前に退職しまして、現職のときからこの公共交通問題っていうのは私は事務次官に至るまで担当の部長もしておりましたけれども、法律の改正からいろいろな仕組みを作るといふことも含めて、携わってきた課題でございます。

それを全自連という民間の立場で御支援をするスキームが立ち上がったということで、御縁をいただいて顧問という立場に今務めております。

今それぞれの知事から貴重な御意見をいただいたかと思っております。私全自連の活動を見ておりました思うことがありまして、一つは民間の立場でやるということですね、ある意味で非常にダイナミックに動ける。これは樋渡さん、池上さんの力が大きいと思っておりますが、それでかなりいろいろな動きが出てきてお思います。今回の知事がお忙しい中でこんなに集まっていたのがその証左だと思っておりますけれども、それはですね、一つは、中身がやはりいろいろなことをやる中で、元々の本当の課題に向き合う中でいろんな課題が実は地域交通絡みであるということがわかってきまして、かなり範囲が広がってきております。

今日のテーマでありますデータ活用ということもそうですし、そのデータをどう集めるのかということ、三日月知事が仰っていた既存の事業者の方々との関係などは、かなりできつつあると思っております。

あとは元々は地域交通というと私も携わってきまして、やはり地元の足ということがまずあるわけですけど、これだけインバウンドが進む中でですね、それぞれの県にもかなりインバウンドの方が入っているんですが、そういった方の足というのをどうするかということが、結構現実の問題としてあり、それについての取組ということもかなり出てきています。

さらには技術の革新というのはスピードがありますので、自動運転というものも、私が国交省の頃からございますけれども、それはかなり今、よりコストを安く、よ

り使いやすく、本当に動くんじゃないかということも今兆しが出てきておりますので、そういったことをしっかり具体事例に照らしてですね、それをまた国の、今日池光交政審さらには各運輸局長の方も皆入っていただいておりますのでそういうところで共有しながら広げていくという、そういったある意味での連携ということの銚に全自連がなれたらな、と非常に強く思っているところでございます。

特に冒頭鈴木知事のお話もありましたけども、公共交通やはり各市町の問題であるという点も非常にございます。そういう意味で市町の協力もそれは大変いろいろな幅広くあるんですけども、それをやはりある意味で動かしていくときに、それを動かす人材の問題、あるいはそれを進めるという点で県の力が大変大きいということ、これは私は全自連に来て改めてしみじみと強く感じたところでございます。

そういった点で、こういうこれだけの県の皆様、県知事の皆様がですね、こういったことに、数ある課題の中で御関心を持って取り組んでいただくことは大変心強いと思っております。是非この輪を広げていきたいと思っております。

特にこれは私の国交省いたときからの問題意識でありますけれども、国の組織として各ブロックに運輸局があり、そういうところでも今地域交通、観光はそれぞれの局長の最大課題でおありになるかと思っております。そういったことをまたこの研究会などを契機としてですね、是非、それぞれのブロックの知事の皆様とお話をぜひ運輸局長の方でもしていただいて、そういう広げる取組に参加して、いろいろ動きが広がればなというふうに心から願っているところでございます。

先頃地域の皆様からいただいた問題意識について、かなり全自連で具体的な事例を積み重ねておりますし、またそのあたりの知事の皆様に御説明を設けさせていただいて、どうやって県の中で拾えるか、或いは他の手段を取れるか、是非考えてまいりたいと思っております。引き続きどうぞよろしく申し上げます。今日は本当にどうもありがとうございます。

(池上調整官)

藤井顧問ありがとうございます。

それでは最後に、次第7にまいります。「今後の進め方/スケジュール」でございますが、まず知事の皆様に御参加いただきます研究会は、年に1回の開催を予定しております。

その間に、実務的な検討を進める場として、各県の担当課長等による幹事会を、年2回程度開催いたします。早速、第1回幹事会を来月2月に開催する予定でございます。ただいま日程等詳細を調整してございます。

本日は時間も限られておりますので、詳細な事務連絡につきましては、改めて事務局 静岡県地域交通課より各県の皆様に御連絡させていただきます。今後とも、

本研究会の取組に、御理解と御協力を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。会議の円滑な進行に御協力を賜りまして皆様大変ありがとうございます。

それでは、御出席の皆様、以上で終了となりますので、順次御退室のほどお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。